

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 3 No 1

18号

平成7年 1月 1日



あけましておめでとうございます

お陰様で新しい年を向かえることが出来ました。今年も、今までと同様、お母さんを安心させる病院目指してがんばります。何か表現に抵抗がありますが、今年も宜しくお願いいたします。

新しい年に向けて

院長

皆さん、去年はどんな一年だったでしょうか。猛暑で過ごしにくい夏、拳銃の発砲事件が多かったり、社会党と自民党が連立したりいろいろありました。経済面では、やっと景気の回復の兆しが見えてきたようです。

健康の方は、いかがだったでしょうか。あまり病気にならなかった子もいれば、長く咳や熱が続いたり、初めてのひきつけで、おおあわてしたお母さんたちもいたことでしょう。年末から、熱が長期に続き、ひどい咳が止らず、何人が連続で入院になり、お母さんたちも心配したことでしょう。

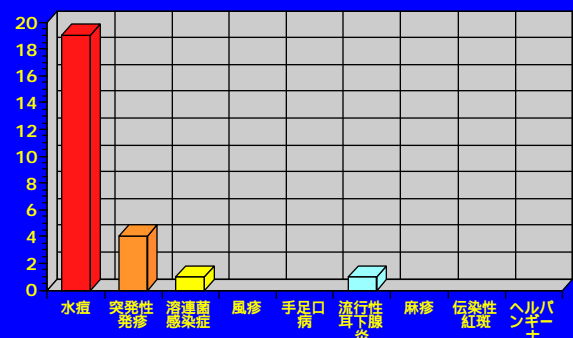
そんな病気の流行で、年末には、大混雑で、皆様にはご迷惑をおかけしました。一年前と比べると、嘘のようです。患者さんの少ない時期には、お母さんたちと十分コミュニケーションをとろうと努力していました。もちろん今もその気持は変わりません。そのこととは逆に待ち時間も気になりはじめました。具合が悪いのに長い間待たされるのは、子供にとって大変だし、避けなければならないことです。混雑してくると、そんな思いで困ってしまいます。重症な子供のお母さんの心配が大きいのは当たり前

で、その心配や不安を取り除くには、短時間では済まないことがあります。待っているお母さんたちも、いつかは自分のこととなるかも知れません。そのことを考え、多少我慢していただくようお願い致します。小生や従業員一同、人知れず焦りながら、頑張っているつもりです。

いつの間にか、当院も2月20日で、二年を迎えます。少しは地域の子どもたちのために貢献できたでしょうか。今年も第1号の新聞にも書いたように、お母さんたちの心配や不安を解消し、安心してかかれる開業医を目指すよう努力するつもりです。

漫然と同じことの繰り返しでは、進歩がありません。今後とも、毎年一つづつ、新しいことに挑戦していきたいと思っています。さて今年は何が出来るか、今考えているところです。お母さんたちも子どもたちの健康のため、何か一つ新しいことに挑戦することもよいかもしれません。

12月の感染症の集計



咳や、熱の持続する風邪の流行に比べ、感染症では水痘が増加してるぐらいで、他の流行はありません。他には、結膜炎を合併する風邪、インフルエンザを疑わせるものなども見られます。ここのところ嘔吐下痢症も増加してきています。気を付けましょう。

1月のお知らせ
 栄養育児相談 午後休診
 18、25日(水) 14日(土)
 栄養士担当 小児科医会理事会のため
 参加無料 15:30まで診療

スタッフから一言

明けましておめでとうございます。
イノシシ年ですが、突っ走り過ぎない様、がんばります。
及川

あけましておめでとうございます
今年、ひとつひとつを大切に、
気配りができるよう努めたいと思います。
中米

あけましておめでとうございます。
これからも一生懸命がんばりますので、よろしく
お願いします。
ことしこそは、ちょっぴりスリムになるぞ!!
矢作

あけまして
おめでとうございます。
今年もよろしくお祈りします。
今年こそ、南の島に、Europe、ドームに、北の国、ついでにバジェロとい
きたいものです。
加藤

医学マメ知識

その16

カゼについて2

寒くなってから、

鼻水がずっと止らないのですが

昔を考えてください。鼻たれ坊主という言葉があったように、鼻水をたらしていたことはいっぱいいたはず。現在は、鼻水をたらすとすぐ病院にかかりますが、場合によっては、薬をのんでもなかなか止りません。耳鼻科にいくとアレルギーとすぐ言われ、2~3週間はがまんするようになると言われることもあります。小児科でも風邪の薬だけでなく、アレルギーの薬や点鼻薬を使っている工夫していますが、止りにくい場合もあります。鼻水や鼻づまりが、生活に影響を与えるような場合は、根気よく薬を続けるよう心掛けてください。

寒くなってから、

咳がずっと止らないのですが

咳や鼻水が続くというときに、一度考えてもらいたいのですが、果たして同じように続いているのか、よくなったり悪くなったりして続いているのか、どちらでしょう。多くは、後者の方ではないでしょうか。病気の場合誰でも、悪いときの印象が、記憶に残ってしまい、変化しているのに、続いていると感じやすくなってしまいます。前回も書いたように、風邪のウイルスは約200種類もあると言われていています。前の風邪が治らないうちに、次の風邪をひくこともよくあるのです。

もう一つ、今度は医学的なことですが、確かにこの秋から、咳が止らず、かなりひどい咳を繰り返す子どもが何人もいます。時々ですが肺に音が聞かれ、薬でなかなかコントロールできない咳のことが特長です。いつも肺に音が聞かれていれば、喘息や喘息性気管支炎と診断するのですが、聞こえない場合の方が多いのです。長期にわたる咳からは、なんらかの原因による気管支の過敏性が考えられますがはっきり

しません。そのうちの何人かは、後になっていつも肺で音が入るようになり喘息ということになりました。恐らく、なんらかのアレルギーによる気管支の過敏性で、ひょっとすると気管支喘息の前段階かも知れません。このような子どもは、アレルギーの検査をする

必要があるかも知れません。

先生に胸で音がすると言われたのですが、どう
いうことなのでしょうか

胸で音がするというのは、呼吸するときに聴診器で音が聞こえるということです。もちろん正常でも呼吸するときに呼吸音は聞こえますが、この場合の音は異常の場合をさしています。音とすれば「キーキー、ヒューヒュー、ゼーゼー、パリパリ、パリパリ、プツプツ」などです。こんな音がする場合は、気管支炎、喘息、肺炎などが考えられますが、音だけで区別できる場合とそうでない場合があります。区別する場合にはレントゲンや血液の検査が必要な場合があります。軽い肺炎の場合や気管支炎はレントゲンによっても区別できないこともよくあります。

余談ですが、他に胸で音がするのは、心音があります。心臓に雑音がある場合は、別にお話しします。心雑音は、当然心臓に病気があると聞かれます。多くは生まれてすぐに見つかります。途中から起こることはないので心配はいりません。

熱が続いていますが、大丈夫ですか

病気の重症度は、熱だけで判断できません。熱の持続と重症度は、ある程度相関するため、一般的には5日間熱が続けばレントゲンや検査を行い、7日以上続けば入院を考えます。逆に症状が重ければ(例えば嘔吐下痢で脱水症状がある、呼吸が苦しい、元気食欲が著明に低下している)外来で早目に点滴をして、改善がなければ入院も早期に考慮します。逆に、熱の持続は7日以上でも、比較的元気があり、他の症状も軽く、検査でも大きな異常がなく、両親の心配がすくない場合は外来で様子を見ることもあります。兄弟が多い場合や、できるだけ入院したくない場合は、外来で注意しながら様子を見るがありますが、医学的に入院が必要と判断した場合は、無理にでも入院させることがあります。逆にお母さんの心配が強い場合は、3日の発熱だけでも入院となることもあります。

これからまだまだ寒い日が続きます。風邪に十分注意し、この冬を乗り切ってください。

編集後記

正月早々風邪のため、新聞の発行が遅れてしまいました。年頭からこんなことではいけません。反省しています。今年もよろしく! 投稿、投書よろしくお願い致します。



目次に戻る

前の号

次の号